２０２２年度事業報告書

（令和４年年４月１日～令和５年３月３１日）

特定非営利活動法人てのひら

１、事業報告

コロナ禍が続き、要介護高齢者の方々や家族への支援の思いと、感染させてはいけないとの思いが交錯。基本理念として掲げる、高齢者の方々を敬愛し、共感と受容と尊重の中で、周りの人々との縁（えにし）を大切にし、残された大切な生涯を安心して歩むことができるような支援が如何に難しいことか、を思い知らされた１年でした。

（1）地域密着型通所介護事業

コロナ禍の続く中、これまで通り、空気清浄機、パーテーションの設置、消毒、マスクの生活が続きました。ご利用者様の迎え時の検温、来所時の手洗い、消毒、食事以外はマスク着用と、デイのご利用に、日々、体調を案じながら、ご利用者様が不安な気持ちを抱えることがないように接してきました。そして、一日を安心して過ごすことができるように、また、心身のバランスがとれることを配慮しながら、脳トレーニング、手指のリハビリ、理学療法士による身体のリハビリを行ってきました。しかし、ご本人の体調不良やご家族のコロナ感染などによる、当日になっての休みが増え、結果的には大きな赤字経営となってしまいました。

それでも、私たちは、ご利用者様が、要介護状態になっても可能な限り在宅生活が続くことを願い、ご利用者様の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持、ご家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることに努めてきました。

コロナ禍の生活であるからこそ、体力の低下の防止のため、これまでと同様、バランスのとれた食事（たっぷりの新鮮な野菜、豊富な食材を使い、目で楽しむ、食べておいしい食事）を提供してきました。食前は唾液の分泌を促し、嚥下を良くするため口腔体操を行い、食後は口腔内の保清に務めるという介護の基本をしっかりと継続してきました。

１０名定員２か所のデイサービスが、時には合わせて１０人、定員オーバーが許されない介護保険法のため、当日に急遽体調不良による休みが一年間続いたための赤字。どうすることもできないコロナ禍での１年でした。

（2）居宅介護支援事業（ケアプラン作成、相談業務）

要介護や要支援の方が最期まで在宅での生活ができるように、ご利用者の意思を尊重しつつ、家族の介護負担が軽減するようなケアプランを作成し、ご利用者とご家族と介護事業所との調整を行いました。

ご依頼があれば、迅速に、ご相談にはしっかりと耳を傾け、丁寧に対応し、中立的な立場に立って、事業所の紹介なども行ってきました。また、医療・介護との連携を強め、利用者の方の退院・退所時における主治医等の助言を得つつ、必要な情報を反映したケアプランを作成してきました。

家族の介護負担から、重度になれば施設にという流れの中で、要介護者のケアプラン数の減少は進む一方で、要支援者のプランが増えるという、収入面の減収と仕事量は変わらずといった状態が続いて今年も続きました。

(3) サービス付き高齢者住宅グループリビング

住人の方々も介護保険の対象者が過半数を占める割合となりました。
ボランティアの方々の協力を得て、夕食時の体制もすっかり定着したグループリビングとなっています。

コロナ禍の中、共用部分についてはしっかりとアルコール消毒を行いました。また、入り口にスタンド式温度計を設置し、万全を期して運営に当たりました。

(4) 生きがい対応型デイサービス（市の受託事業）

コロナ禍もだいぶん落ち着いたため、感染に十分な注意を払う中、必要な対策を講じた中で実施致しました。体操、小物作り、コーラス、短歌、健康マージャン、突発的なお喋り会、ボランティアとコロナ前に戻った活発な１年となりました。